※表示しているレポートはサンプルです。また、レポートの内容・デザインは変更になる場合があります。

やさしい運転 キャッシュバック型

お名前：損保　様

登録番号 ※1：**34

ソニー損保

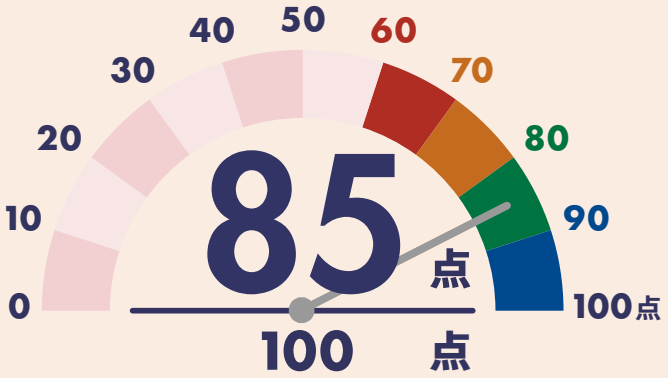
やさしい運転 診断レポート

ご自身の運転傾向を知ることは、「やさしい運転」への第一歩です。
ぜひご自身の運転を振返ってみてください。

計測期間 ※2	総運転時間 ※3	1日の平均運転時間 ※4
2014年 4月 1日 ～ 2014年 9月 30日	145 時間	01 時間 : 23 分

ドライブカウンタ®の点数 ※5 ※6

ドライブカウンタの計測データから総合的に算出した点数です。



点数と保険料のキャッシュバック率 *

＊59点以下の場合は、キャッシュバックされません。

60～69点	70～79点	80～89点	90～100点
5%	10%	15%	20%

キャッシュバック額の計算の際には、一部対象外となる特約があります。

総評

損保　様

全体的に「やさしい運転」で、80点台の高評価となりました。この調子で、今後も「やさしい運転」を続けてください。

次ページからは「急アクセルの傾向」と「急ブレーキの傾向」を表示しています。点数の高低に関わらず、計測データに基づく運転傾向をお知らせしていますので、ご自身の運転を振返ってみてください。

※1：登録番号は下 2 桁のみの表示としています。
※2：計測期間は、ドライブカウンタが「計測中」になった日付から、データが計測された最後の日付までの期間をいいます。
ドライブカウンタの本体がホルダにセットされている状態でデータが計測されます。
※3：総運転時間は、計測期間内に運転された時間の合計をいいます。
※4：1日の平均運転時間は、総運転時間を運転日数で割ったものをいいます。
※5：ドライブカウンタの点数は、計測期間の最終日時点の点数を記載しています。
※6：キャッシュバックの適用にあたっては、所定の条件があります。評価結果等によっては、キャッシュバックされない場合があります。
詳しくは約款・重要事項説明書等をご参照ください。

「ドライブカウンタ」はソニー損保の登録商標です。

【注】以下はあくまで運転傾向を示すもので、ドライブカウンタの点数と直接紐づくものではありません。

急アクセルの傾向
（急加速）

用語の解説

急アクセル
発進時や走行中の加速時に、一定以上の大きさ＊の加速度を検知したものを急アクセルとしています。
＊車の挙動をもとに、当社基準で判定します。ドライブカウンタでは加速度の大きさが基準を上回った場合に、原則として音でお知らせしています。

急アクセルの発生頻度
計測時間あたりの急アクセルの回数をもとに算出、評価しています。

急アクセルのときの踏みこみ
急アクセル1回あたりの「加速度の大きさ」をもとに評価しています。

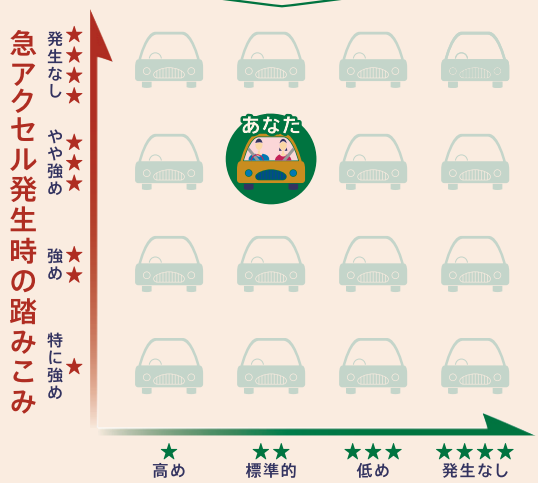
まとめ

急アクセルの発生頻度は「標準的」でした。
また、発生時の踏みこみは「やや強め」でした。

日頃からふんわりとしたアクセル操作と、速度変動の少ない運転を心がけましょう。なお発進時は、ジワッと踏みこむと良いでしょう。

急アクセルの発生頻度	急アクセル発生時の踏みこみ
★★☆☆	★★★☆
標準的	やや強め

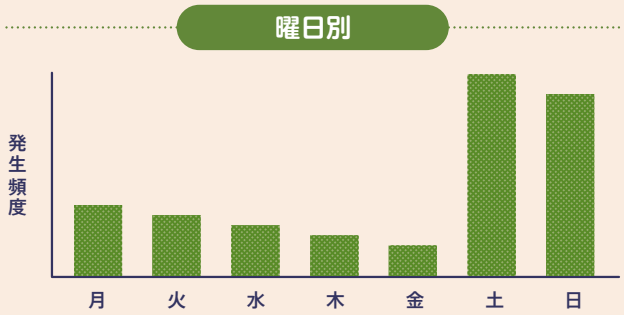
星の数４つが、急アクセルの「発生なし」で最高評価です。

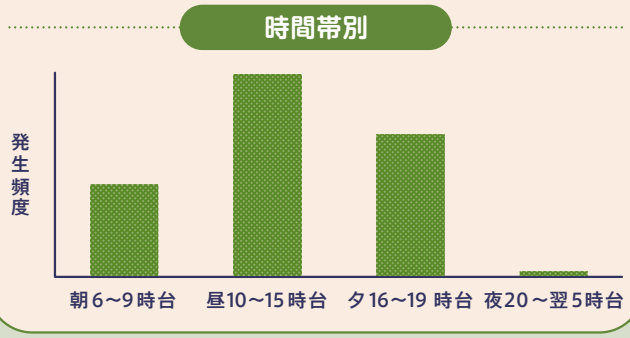


【注】評価基準は当社が定めるもので、
蓄積された計測データの実績に基づき適時見直します。

急アクセルの発生頻度

急アクセルの発生頻度を、月別・曜日別・時間帯別にグラフにしています。





急発進の割合

「急発進」とは、「急アクセル」のうち「発進」時に発生したものだけを指します。
3秒間以上停止した後に車が動き出した場合を、「発進」としています。

※図はイメージです。

発進回数	急発進回数	急発進の割合
54,321 回	123 回	0.23 %

急発進の割合 みんなとの比較 ※7

「急発進の割合」が0.00％の場合に、最高評価（「あなた」の位置が右端）となります。

※７：　●年 ●月 ●日時点までに蓄積した計測データに基づく相対的な評価です。

【注】以下はあくまで運転傾向を示すもので、ドライブカウンタの点数と直接紐づくものではありません。

急ブレーキの傾向

用語の解説

急ブレーキ
停止の際や走行中の減速時に、一定以上の大きさ＊の加速度を検知したものを急ブレーキとしています。
＊車の挙動をもとに、当社基準で判定します。ドライブカウンタでは加速度の大きさが基準を上回った場合に、原則として音でお知らせしています。

急ブレーキの発生頻度
計測時間あたりの急ブレーキの回数をもとに算出、評価しています。

急ブレーキのときの踏みこみ
急ブレーキ１回あたりの「加速度の大きさ」をもとに評価しています。

まとめ

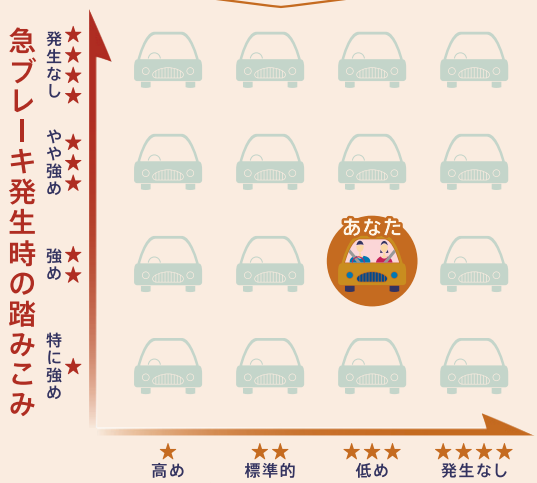
急ブレーキがありましたが、発生頻度は「低め」でした。ただし、発生時の踏みこみは「強め」でした。

十分な車間距離とエンジンブレーキの活用で、急ブレーキを減らすことができます。

【注】安全のため必要なときは強くブレーキを踏んでください。

急ブレーキの発生頻度	急ブレーキ発生時の踏みこみ
★★★☆	★★☆☆
低め	強め

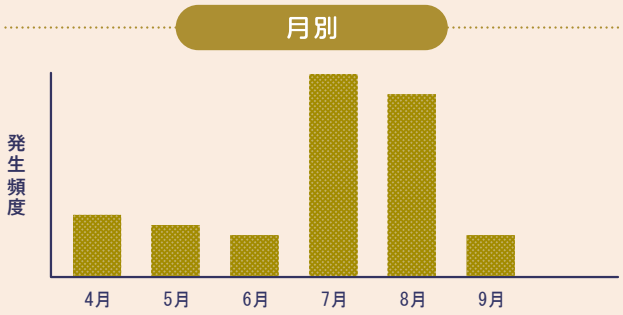
星の数４つが、急ブレーキの「発生なし」で最高評価です。

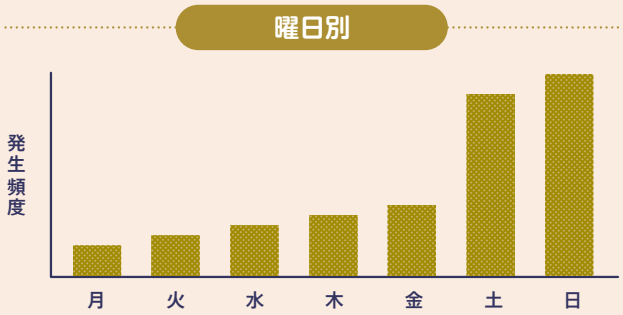


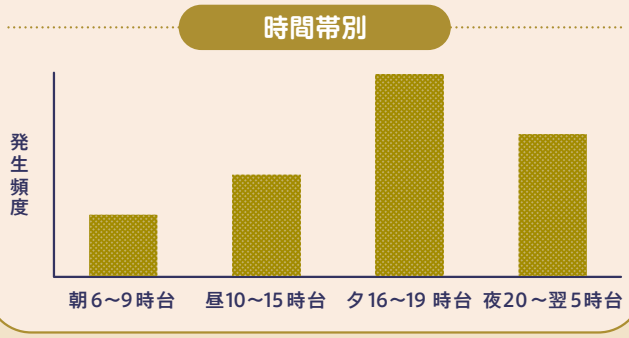
【注】評価基準は当社が定めるもので、蓄積された計測データの実績に基づき適時見直します。

急ブレーキの発生頻度

急ブレーキの発生頻度を、月別・曜日別・時間帯別にグラフにしています。







急停止の割合

「急停止」とは、「急ブレーキ」のうち「停止」時に発生したものだけを指します。
走行後３秒間以上停止した場合を、「停止」としています。

※図はイメージです。

停止回数	急停止回数	急停止の割合
54,321 回	456 回	0.84 %

急停止の割合 みんなとの比較 ※8

「急停止の割合」が0.00％の場合に、最高評価（「あなた」の位置が右端）となります。

※８：　●年●月●日時点までに蓄積した計測データに基づく相対的な評価です。

「やさしい運転」に向けて

ソニー損保の提案する急加速・急ブレーキの少ない「やさしい運転」は、事故率の低減のほか、地球環境への負荷軽減や燃費改善にも役立つ「エコドライブ」との共通点があります。
「やさしい運転」に向けた「エコドライブ」のポイントをご紹介しますので、ぜひ実践してみてください。

出典：一般財団法人省エネルギーセンター「LET'S スマートドライブ」

ふんわりとアクセルを踏もう。

発進するときは、おだやかにアクセルを踏んで発進しましょう。(「最初の５秒で時速 20km 程度」が目安です)
通常より少しおだやかに発進するだけで、燃料消費量は 10％程度少なくなります。

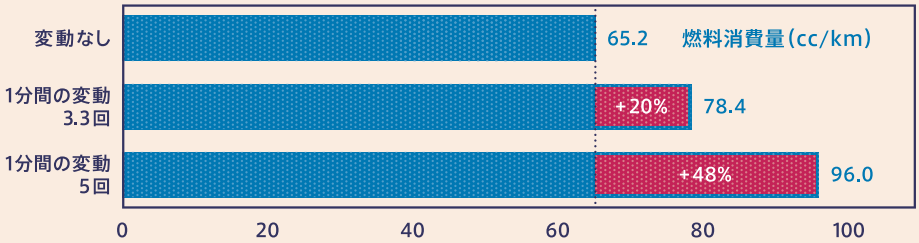
1. アクセルを急に踏みこむのではなく、足を乗せるイメージでジワッと踏み始めます。
2. 速度の上昇とともに、徐々に踏む力を増やします。
3. 加速しすぎないように、車の流れに乗る前のタイミングで少し元に戻します。

車間距離に余裕を持って、加減速の少ない運転をしよう。

速度変動の少ない運転をするためには、まず適切な車間距離をとることが大切です。
車間距離が短いと、周囲の交通状況等の変化に余裕をもって対応することができず、急加速や急ブレーキが増えてしまいます。
運転中は、速度変動を抑制することを意識します。前の車に連なって走ると速度変動が大きくなるので、適度な車間距離をとりアクセル操作で速度調整することで、速度変動の少ない運転が可能になります。

速度変動による燃料消費量への影響

速度変動の少ない運転は、燃費改善につながります。
たとえば、「1 分間の速度変動 5 回」で走行した場合と、「速度変動なし」で走った場合とを比べると、48％もの燃料消費量の差がでます。



（省エネルギーセンター調べ） 80km/h±5km/h の速度変動の場合 2500cc ミニバンを用い測定

早めにアクセルオフしよう。

走行中の車は、アクセルを離してもしばらくは惰性で進むので、少ない燃料で走行することになります。周囲の交通状況等を見て、前方で曲がったり停止したりする必要のあることが分かったら、早めにアクセルから足を離してエンジンブレーキで減速しましょう。
できるだけ惰性で進んだ後に、ブレーキで停止位置を調整することで、なめらかな停止ができるようになります。
早めのアクセルオフを心がけると 2.1％程度燃料消費量が少なくなります。

アイドリングストップも心がけよう。

地球環境への負荷軽減を考えて、駐停車や信号待ちなど車が止まっている時には、エンジンを止めるようにしましょう。
エンジンを始動する時に必要な燃料は、 アイドリング 5 秒分に相当します。車を 5 秒以上停止する場合は、 エンジンを止めると燃料消費量の削減につながります。

ソニー損保の自動車保険
やさしい運転キャッシュバック型

【専用サイト】
ソニー損保 やさしい運転キャッシュバック型
検索

（レポートに関するお問合せ先）ソニー損保カスタマーセンター / 受付時間：9:00～22:00
0120-808-278 携帯OK PHS OK おかけ間違いのないよう番号をお確かめください。